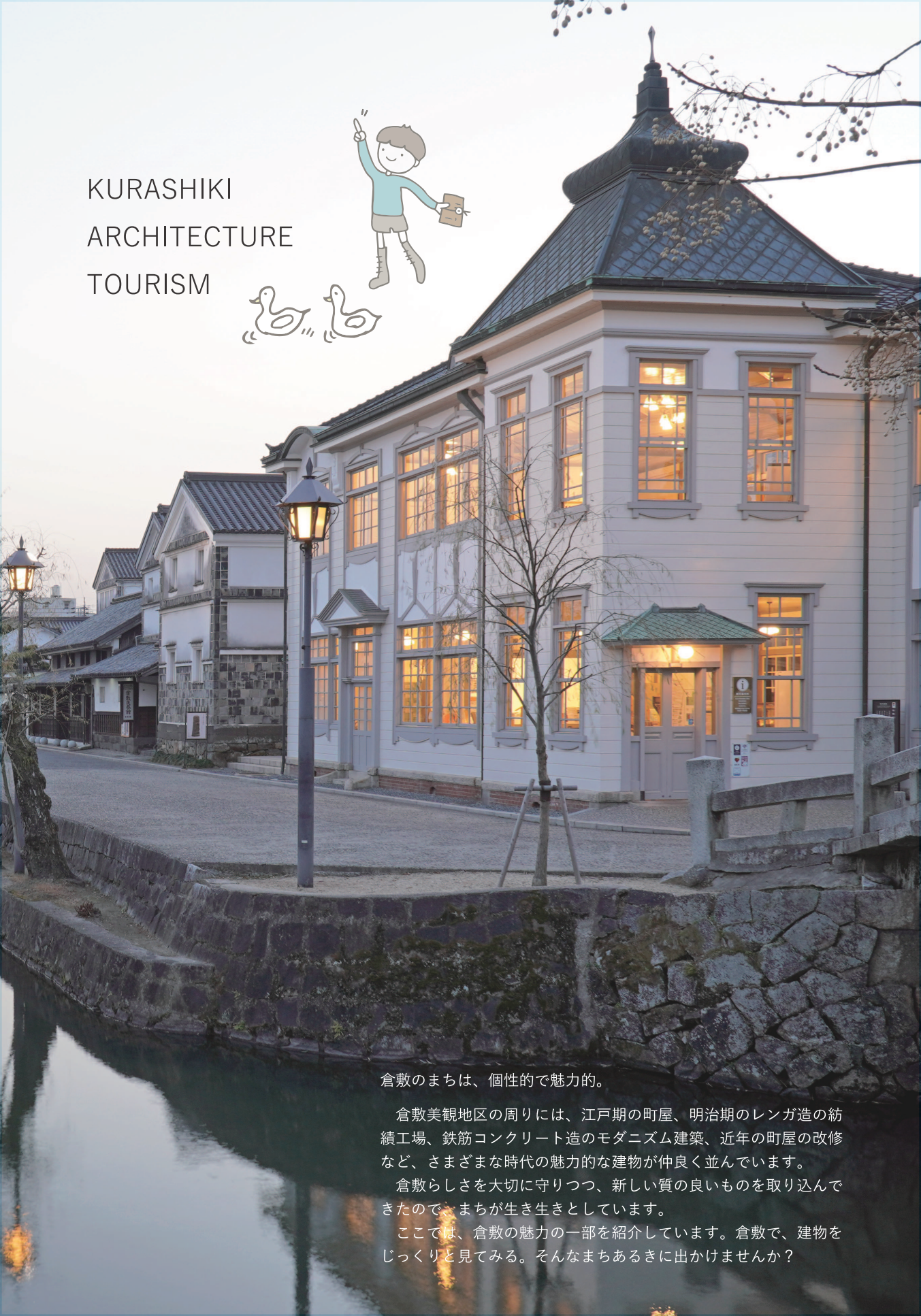


KURASHIKI
ARCHITECTURE
TOURISM



倉敷のまちは、個性的で魅力的。

倉敷美観地区の周りには、江戸期の町屋、明治期のレンガ造の紡績工場、鉄筋コンクリート造のモダニズム建築、近年の町屋の改修など、さまざまな時代の魅力的な建物が仲良く並んでいます。

倉敷らしさを大切に守りつつ、新しい質の良いものを取り込んできたので、まちが生き生きとしています。

ここでは、倉敷の魅力の一部を紹介しています。倉敷で、建物をじっくりと見てみる。そんなまちあるきに出かけませんか？

倉敷たてもの年表



1721
井上家住宅



1796
大橋家住宅

1900



1922 (2025開館)
大原美術館
児島虎次郎記念館



1923
倉敷教会



1926 (1959喫茶開業)
喫茶エル・グレコ



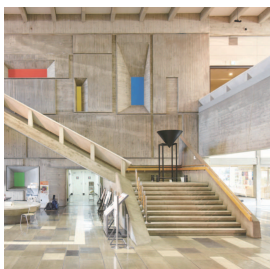
喫茶エル・グレコ



1928
有隣荘



1930
大原美術館



倉敷市立美術館



江戸時代 (1948開館)
倉敷民藝館



1893 (1957開館)
倉敷考古館



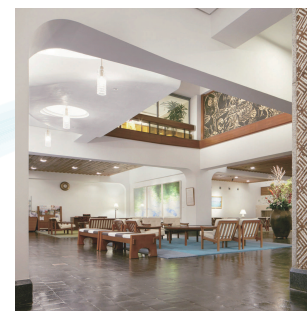
1960開庁 (1983開館)
倉敷市立美術館



1961
大原美術館分館



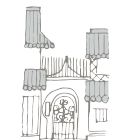
1963
倉敷国際ホテル



倉敷国際ホテル



1969
倉敷公民館



大正時代 (1971開業)
倉敷珈琲館

倉敷の建築家

倉敷美観地区周辺を舞台に、様々な建築家が倉敷のまちに新しい風を吹き込みました。西村伊作、薬師寺主計、丹下健三、浦辺鎮太郎、榎村徹。異なる時代、それぞれが個性的でありながら、新しく質の良いものをつくっています。それらが倉敷らしさになり、他にないまちなみになっています。

西村伊作ってどんな人？



1884～1963年、和歌山県新宮市生まれ。文化学院の創立者です。大正デモクラシー期を代表する文化人の一人で、建築家で陶芸家、画家、教育者でもありました。住宅を、主人とその客を重視した客間中心から、家族を重視した居間中心の住宅（居間式住宅）に転換することを主張しました。倉敷市内では、「倉敷教会」だけでなく「若竹の園」「旧林家住宅」も西村伊作の作品です。

薬師寺主計ってどんな人？



「やくしじ かずえ」と読みます。1884～1965年、岡山県総社市生まれの建築家です。鶴形山のトンネルを出て南に歩くと、「児島虎次郎記念館」「有隣荘」「今橋」「大原美術館」と「喫茶エル・グレコ」といった一連の建物が、すべて薬師寺主計の作品です。使われ方もデザインもそれぞれが全く違いますが、どれも個性で輝いています。当時は最新の建築が次々と生まれたように感じられたかもしれませんが、今ではすっかりなじんでいて、倉敷の「風景を創り出した建築家」とも言われています。大原美術館の最初の西洋絵画を集めた画家・児島虎次郎（1881-1929）と同じく、倉敷紡績・大原孫三郎（1880-1943）の奨学金を得て東京で学び、その後孫三郎の下で活躍しました。戦争が迫るわずかな時期に薬師寺主計の作品はつくられました。集大成となった神殿建築のような大原美術館は、児島虎次郎が亡くなった後ですが、同年代の3人の思いが今の倉敷を形づかったといっても良いのではないのでしょうか。

丹下健三ってどんな人？



1913～2005年、大阪府堺市生まれ。世界を代表する建築家です。当時、すでに海外でも活躍し、旧市庁舎（倉敷市立美術館）ができた時は、倉敷に「世界のタンゲ」がやってきた！と盛り上がりました。コンクリート打放しのモダニズム建築を得意とし、ダイナミックな空間構成は見ごたえがあります。代表作に「国立代々木競技場」「広島平和記念資料館」「東京都庁舎」などがあります。

榎村徹さんってどんな人？

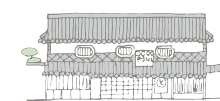


1947年生まれ、倉敷出身の建築家です。1980年代半ばから古民家の再生を手がけ、倉敷美観地区だけで約40軒にのびります。それまでの倉敷美観地区には、古く傷んだ町屋が多くありました。「空き家を再生することで、生まれ育ったまちを元気にしたい」、1年に1軒、30年経てば30軒、いずれまちは変わっていくのではないかと考え、取り組んできました。榎村さんの古民家再生の特徴は、海外の素材でも長い伝統の上に作られたものは、日本の伝統に調和するという考えです。新しいデザインを取り入れることで、次の時代につなげていこうとしています。また、倉敷の路地の文化を敷地の中にも取り入れ、奥に新しい魅力を加えることで、倉敷美観地区に新しい活気が加わり、まちがいきいきと輝いています。「楠戸家住宅」や「林源十郎商店」「クラシキ庭苑」など、榎村さんの思いが随所に散りばめられた建物を、コツコツとつくってきました。

浦辺鎮太郎ってどんな人？



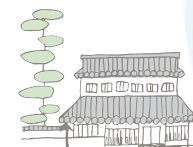
1909～1991年、倉敷市生まれの建築家です。「私は土から生えたようなものしかつくれません」民芸を好み、土着的な建物を好んでいた浦辺らしい一言。53歳で設計事務所を開く前は、長く企業の営繕部につとめていました。使いやすさや、メンテナンスなど、技術的なことにも注意して設計された質の高い建物は、古びて味わいが増えています。どちらかというとも水平垂直な機械的な印象の建物でなく、民芸からにじみ出るような、その場所にふさわしく、まちなじむ個人的な景観の建物を多く手掛けました。同窓の大原総一郎の下で多くの作品を手掛け、総一郎が亡くなった後も、総一郎が見たドイツの城壁都市ローデンプルグを理想とし「倉敷を日本のローデンプルグにしよう」を合言葉に、倉敷美観地区を中心に約1km四方の範囲を「四方櫓（しほうやぐら）」と名づけ、その範囲の建物の景観を守り育てました。「倉敷考古館」をはじめ、「大原美術館分館」「倉敷国際ホテル」や「倉敷アイビスクエア」など、倉敷のまちに調和しつつ、新しさを取り入れることを大切にしました。



1887(2022 サロン開業)
楠戸家住宅
atelier & salon はしまや



語らい座・大原本邸



1795 (2018開館)
語らい座・大原本邸



江戸時代 (2017開業)
クラシキクラフトワークビレッジ



林源十郎商店

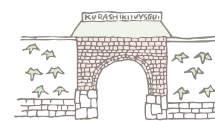


江戸時代(2014 開業)
クラシキ庭苑

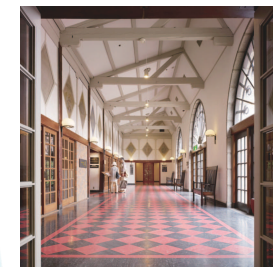


1934 (2012開業)
林源十郎商店

2000



1889(1974開業)
倉敷アイビスクエア



倉敷アイビスクエア



浦辺鎮太郎 (1909~1991)

浦辺鎮太郎(うらべしずたろう)は倉敷出身の建築家です。大原総一郎と共に倉敷のまちづくりを支えました。新旧調和を大切に、倉敷のまちなみを守りつつ、新しい建築をつくることに挑戦しました。浦辺鎮太郎の5つのモダニズム建築をめぐってみましょう！



1 倉敷考古館 増築 新旧調和

川畔の旧館は江戸期の土蔵を民芸の外村吉之助が改修。北側の新館は浦辺鎮太郎のモダニズム建築です。壁も屋根も同じじゃないのになじんでいます。

1893年、1950年改修：外村吉之助、1957年増築：浦辺鎮太郎



2 大原美術館 分館 守るために攻めることもある

まちなみの保存地区を守る城壁のイメージで、古い町家の高さ、白黒の色調としました。新溪園を抱く形と美術館を融合しています。

1961年：浦辺鎮太郎



3 倉敷国際ホテル 壁庇

打ち放しコンクリートの斜めの庇(=壁庇)、白壁、黒瓦が水平に重なります。雨から外壁の汚れを防ぐ伝統的な考え方を応用した浦辺鎮太郎オリジナル。

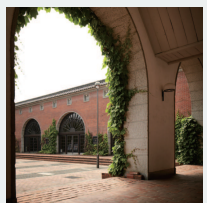
1963年：浦辺鎮太郎



4 倉敷公民館 三階蔵

市民の集会室、ホールをもちつつ、景観になじむことを目指しています。ゆったりとした大きな屋根と白い壁、黒瓦の鉢巻はまるで大きな蔵のよう。

1969年：浦辺鎮太郎



5 倉敷アイビスクエア のこぎり屋根とレンガとアーチ

企業の営繕部出身の浦辺鎮太郎は、紡績工場を建て替えるのではなく、残して活用する中でその力を存分に発揮しました。中庭床の四角い石の列は紡績工場の柱のなごりです。

1889年紡績工場、1974年：浦辺鎮太郎

倉敷窓(クラシキマド)

すみっこが角(つ)のように突き出ている窓は、角柄窓(つのがらまど)と呼ばれています。そのうち、3本または5本の縦格子を入れた窓を、倉敷窓と言います。縦格子3本は5本のものよりも時代が古いそうです。



江戸時代前期、倉敷は天領として栄え、本町通りは単筋屋、樋屋など職人達が軒を連ね、古禄(ころく)と呼ばれる有力な商人の屋敷が建つ、メインストリートでした。昔の風景を残しつつ、町屋を改装したカフェやお店が通りの新しい魅力を引き出しています。

江戸時代後期、倉敷川沿いに新禄(しんろく)と呼ばれる新しい商人の屋敷が建てられました。川の水面に映る町屋や蔵の町並みは美しく、今も多く観光客で賑わっています。

2つの通りをてくてく歩き、昔からつづく、倉敷のまちなみを楽しんでみませんか。



11 大橋家住宅 倉敷の倉(蔵)

倉敷にはたくさんの蔵があります。その中でも、大橋家入って右の蔵は特徴的で、内壁に瓦を張っています。荷擦れや湿気対策だと言われています。

【新禄の町家】1796年、1991~94年 保存修理



12 語らい座 大原本邸(大原家住宅) お庭

奥に緑豊かな庭を持つ屋敷が多くあります。大原家も主屋と蔵の間の石畳を進むと、奥にお庭があります。大原孫三郎が作庭に関わったと言われるお庭です。

【新禄の町家】1795年、2018年改修：UR設計



13 倉敷珈琲館 夜あかり

入口の上にかわいいランプがひとつ。建築家・浦辺鎮太郎が、カフェに改修した時のものです。その後の、倉敷美観地区の夜あかりは照明デザイナー・石井幹子のデザインです。

【新禄の町家の蔵】大正時代、1971年改修：浦辺鎮太郎



14 井上家住宅 三階蔵

井上家の正面左手の路地を進むと、裏に背の高い蔵があります。内部は階段が急なので公開されていませんが、日本の木造建築では非常に珍しい3階建ての土蔵です。

【古禄の町家】1721年、2022年 保存修理



15 楠戸家住宅・atelier & salon はしまや ひやさい

倉敷美観地区の通りを一步入ると、ひやさいという細い路地があちこちにあります。差し込む日の光が弱い(浅い)様子からついたと言われます。楠戸家のひやさいもとても魅力的です。

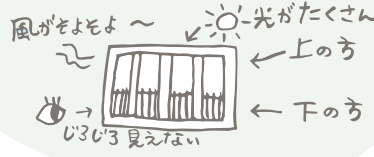
【近代の町家】1887年、1997年改修：橋村徹

探してみよう！ 倉敷の町屋にある秘密

各施設の開館時間、休館日などの情報は、それぞれの二次元コードからご確認ください。

倉敷格子(クラシキゴウシ)

縦格子の間に、細く短い格子が3本あります。外の光をたくさん取り込み、夏の涼しい風を通しつつ、外から家の中が見えにくいように、下の方は格子が多くなっています。倉敷格子のデザインは、お庭の柵にも使われています。



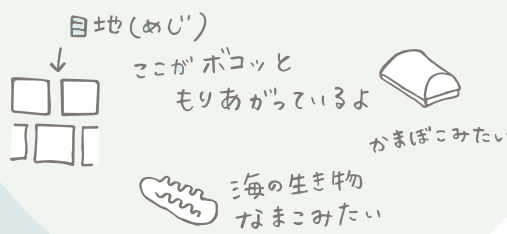
9



大原美術館から倉敷教会までは徒歩約10分です。

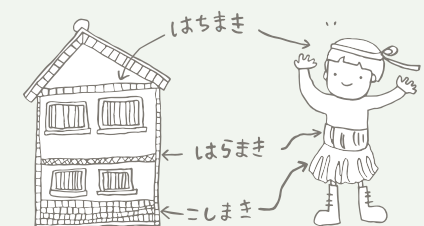
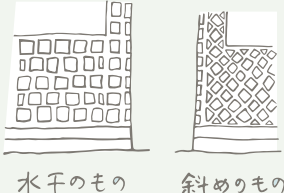
なまこ壁(ナマコカベ)

正方形の瓦を貼り付け、その隙間の目地を漆喰で盛り上げてます。この目地漆喰は、かまぼこみたいな半円形で、海の生き物のなまこに似ているので、なまこ壁と呼ばれています。目地の向きや瓦の色の違いも楽しいですよ。



鉢巻・腹巻・腰巻 (ハチマキ・ハラマキ・コシマキ)

蔵の上の方にある、横方向の瓦張りを鉢巻といいます。平瓦の鉢巻は、この地域独特のデザインです。蔵の壁の真ん中の瓦貼りを腹巻。下の方の瓦貼りを腰巻といいます。鉢巻・腹巻・腰巻、全部つけている蔵がなかなか可愛く見えてきませんか？



薬師寺主計 (1884~1965) 写真：上田恭嗣 所蔵

薬師寺主計は大原孫三郎と共に倉敷のまちづくりに大きく貢献しました。白漆喰の蔵や屋敷が並ぶ倉敷のまちに、古典主義からアール・デコまでさまざまな様式を大胆に取り入れました。質が高く、100年経ったいま、倉敷のまちにすっかりなじんでいます。薬師寺主計の建物と、倉敷のまちなみが変わるきっかけとなった建物をめぐりましょう。



6 大原美術館 本館 日本で最初の西洋近代美術館

神殿風の外観もまちなみと調和しています。正面の円柱は、上部にくるくるとした渦があり、イオニア式と呼ばれます。単純な形ですが、大胆な構成でのバランスの良さが見事です。

1930年：薬師寺主計



7 有隣荘 緑やオレンジ瓦の住宅

大原孫三郎が病弱な妻を気遣い「落ち着いた住まいを」と建てた別荘です。和風部分を伊東忠太が、欄間の龍などは児島虎次郎がデザインしています。春と秋に公開されています。

※公開時期以外は非公開につき、内部に入ることができません 1928年：薬師寺主計



8 喫茶エル・グレコ 清楚でレトロな喫茶店

木造の事務所を改修した喫茶店です。赤いテントが目印で、木の床のなつかしい音、木製の上げ下げ窓、高い天井、民芸調の衝立がレトロな雰囲気です。

1926年：薬師寺主計、1959年改修



9 倉敷教会 石積みのスロープと塔が印象的な教会

薬師寺主計と同時代で倉敷にできた建物に倉敷教会があります。日本文化学院をつくった西村伊作の設計で、塔と石貼りの壁、側面に連続する尖頂アーチ窓などが特徴的です。

1923年：西村伊作



10 倉敷市立美術館 鉄筋コンクリートの校倉造り

日本を代表する建築家・丹下健三の設計による旧市庁舎。コンクリート打放しの力強い表現と内部の大空間が魅力的です。1983年に浦辺鎮太郎により美術館に改修されています。

1960年：丹下健三、1983年改修：浦辺鎮太郎

虫籠窓(ムシコマド)

虫籠(むしかご)のような細かい縦格子の窓は、京都の町屋の影響で、幕末から明治の初頭に倉敷に入ってきた比較的新しいデザインです。初めは、枠も格子も真っ白な漆喰塗りでしたが、後に木や鉄など、さまざまな虫籠窓がつけられました。



倉敷の建物再生は、古き良きものを残しつつ、新しいデザインを取り入れています。幾重にも重なる時代の中で、倉敷の歴史・文化を伝える大切なものを残し、その時代の生活スタイルにあった質の良い新しさを生み出してきました。

古民家からモダニズム建築、美術館やカフェ、ショップなど、それらは良い具合に混ざり合い、いきいきとした倉敷独自の建物とまちなみを創り出しています。倉敷の建築家・橋村徹(ならむらとある)さんの古民家再生から、2025年にグランドオープンした児島虎次郎記念館まで。

古い町並みに芽吹く新しさに触れながら、倉敷のまちなみを楽しみましょう。



16 林源十郎商店 路地の小路

昭和初期の薬問屋の店舗、主屋、離れ、蔵(江戸期)を、配置や構造材はそのままに、新しい庭と路地です。ショップの屋上にデッキがあり、くらしきの屋並みが望めます。

1934年、2012年改修：橋村徹



17 クラシキクラフトワークビレッジ 通り土間

古い町家の中に新しい「通り土間」をつくり、奥の空き地に増築しました。クラフト(手仕事)のお店が通り土間に軒を連ね、工場の息づかいが感じられます。

江戸時代(約200年前)、2017年改修：橋村徹



18 クラシキ庭苑 路地のパティオ

空き家だった細長い町屋を改修しました。外観の装いはほぼ元のまま。路地の先に、明るい中庭の光が見え、自然と奥まで足を運ぶと、魅力的なお店に出会えます。

江戸時代(約200年前)、2014年改修：橋村徹



19 倉敷民藝館 建物も民芸のよう

土蔵作りの4棟の米蔵を改修し1948年に開館しました。2020年に売店がリニューアルされ、明るく広い空間になりました。ゆったりと民芸品を選び、購入できます。

1948年開館、1971年改修、2020年リニューアル：橋村徹



20 大原美術館 児島虎次郎記念館 洗練されたデザイン

薬師寺主計が大原孫三郎の依頼で手がけた銀行建築で、西洋建築の様式を採用しています。2025年4月に大原美術館の児島虎次郎記念館としてグランドオープンしています。

1922年：薬師寺主計、2025年リニューアル：UR設計

探してみよう！ 倉敷の町の移り変わり

倉敷美観地区周辺にある建築情報を、Web サイト「倉敷まちあるきマップ」でご覧いただくことができます。倉敷市在住の岡本直樹氏の描いた1963年と2005年の鳥瞰絵図を見比べながら、一緒に倉敷の魅力を再発見していきましょう！



scan me !!

<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/kuraaruki>

スマートフォンのブラウザで
「位置情報の利用」を許可して
ご利用ください。

「アートのまち倉敷」実行委員会事務局（倉敷市観光課）

製作：2026年3月 URABE | 浦辺設計